

部会からのお知らせ

幼稚園部会 幼児教育・保育の無償化について

令和元年10月より全国一斉に幼児教育・保育の無償化が実施されました。これは、10%に増税された消費税財源の一部を活用して3才以上児の保育料の保護者負担額を0円にするもので、対象となる施設は幼稚園・保育園・認定こども園・企業主導型保育所、認可外保育施設となっており、ほぼ全ての3才以上児の幼児教育・保育を実施する施設に適用されました。

幼児教育の無償化については約20年前から幼児教育の社会的な投資効果が高いことに着目してヨーロッパの先進諸国が導入し始め、今では多くの国で実施されています。最も早く導入したイギリスでは当初、週あたり12.5時間の幼児教育の無償化が図られました。現在は週30時間程度に伸ばされています。その中で幼児教育の効果が最大化されるのは週20～25時間程度の保育時間であると検証されています。

日本の場合、週あたり最大66時間の保育サービスの提供が無償となりました。1日11時間×週6日=66時間の計算です。働き方改革が叫ばれている昨今ですが、大人が週66時間の就労を行った場合、いわゆる「過労死レベル」の就労となります。このような長時間の保育が子どもの育ちにどのような影響を与えるのか、全く検証がなされていません。

私たち幼児教育に携わる者として子どもの健全な育成に尽力する覚悟ですが、長時間保育を受けた園児たちが小学校以降の学校教育において どのような育ちをしていくか丁寧な検証が必要と考えます。



小中高部会 授業料・学用品・入学準備に対する支援について

私立高校生に対する支援

1 授業料等に対する支援

2020年4月から、**私立高等学校授業料の実質無償化**がスタート!

年収590万円未満の世帯の生徒を対象に、

授業料を最大396,000円まで支援!!

世帯年収額の目安	支給額(年額最大)	
590万円未満	全日制	396,000円
	通信制	297,000円
590万円～910万円未満	全日制	118,800円
	通信制	118,800円

3 入学準備に対する支援

新入生の保護者等の道府県民税所得割額と市町村民税所得割額が非課税世帯等(生活保護世帯を除く)には、入学用品等の購入費として給付金が支給されます。

2 学用品等に対する支援

生徒の保護者等の道府県民税所得割額と市町村民税所得割額が非課税の世帯等には、学用品等購入費として給付金が支給されます。

区分		給付金額(年額)	
生活保護受給世帯	全日制	52,600円	
	通信制	52,600円	
道府県民税所得割額市町村民税所得割額非課税世帯(270万円未満)	第1子の高校生等がいる世帯	全日制	103,500円
		通信制	38,100円
23歳未満の扶養されている兄・姉がいる世帯で第2子以降の高校生等がいる世帯	全日制	138,000円	
	通信制	38,100円	

世帯年収額の目安	支給額(一律)
道府県民税所得割額市町村民税所得割額非課税世帯(270万円未満)	50,000円

私立小学生・中学生に対する支援

1 授業料等に対する支援

年収400万円程度未満で、保護者等全員の保有資産額の合計が600万円以下の世帯に支給されます。

世帯年収額の目安	支給額(年額最大)
400万円未満	100,000円



私学 やまなし

第7号
令和2年9月

理事長挨拶



公益社団法人
山梨県私学教育振興会
理事長 川手佳彦

山梨県私学教育振興会は、新たに公益法人として発足以来6年が経過いたしました。山梨県内の私立学校は、幼稚園から高等学校まで、時代の進展とそのニーズに応えるべく様々な努力と工夫を重ねてきました。その結果、県民の皆様からの信頼を得ることができたと思っております。これも教職員や関係者の方々の日夜のご努力の賜物と敬意を表するところであります。今後も建学の精神に則り、園児、児童、生徒を訓育するとともに、学力の向上に努めて参りたいと存じます。

時代は情報化・グローバル化・価値観の多様化など大きな変革期に対する教育が求められ、その対応が進められつつあります。一方、私立学校の経営は、少子化が進む中、大変厳しい時代を迎えており、多くの園児、児童、生徒をいかに確保していくかが喫緊の課題であります。

このような状況下、新型コロナウイルスの影響で全国的に学校の休校措置が行われ、これに伴ってオンライン授業を実施しなければなりません。授業形態の変更は子どもたちや教育関係者に大きな戸惑いと不安を与えました。

しかしながら、今回の新型コロナウイルスへの対応によって、私学も含め、緊急時における教育方法の在り方や対応の遅れなどの課題、さらには情報化時代の教育現場におけるツールなどが世界の潮流から立ち後れていることが浮き彫りになりました。これらの問題は今後のインターネット時代の教育に向けた大きな教訓にしなければなりません。そして、この教訓を日本的な教育システムにどのように組み込んでいくかが問われているのではないのでしょうか。

保護者の声



山梨県私立幼稚園 PTA 連合会
会長 水谷 みや美
(認定こども園 甲府大里幼稚園 PTA 前副会長)

皆様こんにちは、令和2年度山梨県私立幼稚園PTA連合会会長を務めさせて頂いています水谷みや美と申します。皆様と共に今年度私学教育の振興・子ども達の健全育成の為に精進させていただきます。

今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、多くの方々が不安感を抱かれたことと思います。ウイルス感染拡大を防ぎながらウイルスとともに生活していく中で、子ども達を守っていく行動が求められています。

各園では、子どもを守るための活動変更を行い、消毒などの予防策を考え実行し続けて来ています。園の生活スタイルに変化があっても、子ども達はお友達からの友情や先生からの愛情を感じています。幼児期の集団生活中で得られた事は、人としての「土台」を築く大切な時期です。幼児期の育ちを家庭でも支え、感染防止の大切さを伝えていきたいと思っております。



山梨県私立中学高等学校 PTA 連合会
会長 反田 賢一
(甲斐清和高等学校 PTA 会長)

私立中学校・高等学校に在学されている生徒の保護者の皆様、教職員の皆様こんにちは。

私立学校の良さは、建学の精神に則った教育方針に基づき、創意工夫した教育を実践し、多種多様な人材を育てていることだと思います。

しかしながら現在は、新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な学校行事が中止や延期となり、各学校の先生方も感染拡大防止に努めている日々を送っていることと思います。

このような環境下において、子ども達は今までの当たり前の日常も大きく変わり、不自由な思いで学校生活を送ることを余儀なくされています。

コロナ禍の今、我々保護者は、先生方とより一層信頼関係を築き上げ、子ども達が安心、安全で実りある学校生活を送れるよう努めていきたいと思っております。

新型コロナウイルスへ対応 幼稚園・学校における危機管理・取り組み状況



バンビバイリンガル幼稚園
園長 川瀬 るり子

自粛中は、動画配信、子どもと親への電話ケア、オンラインクラス等様々な新しい事にチャレンジしました。分散登園期間中も職員配置や消毒作業等をやってみて修正を繰り返し今後のシミュレーションができた事で、職員も少しずつ自分たちで考えて行動ができるようになっていきます。

当初あまり情報がない時は、マスク着用や消毒等かなり神経を使い子ども達の活動も制限しましたが、現在は何をどう恐れたらいいのか職員間で共有できているので、子どもの動線や活動は制限していません。

現在、実施している対策は、保護者を含め職員以外の大人を園内に入れない、園内に入る前の手指の消毒、職員のマスク着用、毎日の検温とご家族に発熱、かぜ症状ある方の出席停止、食事前の手指の消毒と、ランチタイムはアクリル板のついた使用。テーブルにあわせて組立て式のものの特注したので大きな出費でしたが、万が一クラスターが起きたら、食事の場であることが想定されたので躊躇はありませんでした。無言で食べるとかバラバラに離れて食べるとか、それこそ集団保育の意味がなくなってしまいます。

このコロナ禍、対策に追われるだけではなく、子ども達に手をきれいに洗うことの意味や、対策していても病気になること、病気になることが悪いことではないこと、他の人達を守るためにせきエチケット等自分ができることがあることなど、命を守るための大切な「教育」の場であることを心して考えていきたいです。



山梨英和中学校・高等学校
校長 三井 貴子

予想をはるかに超えるCOVID-19の感染拡大により世界が一変し、これまでの生活様式を見直さざるを得ない事態となりました。教育現場においても3月以降登校不可となり危機管理体制が厳しく問われました。

本校では2012年より研究・整備してきたICT環境を活かし双方

向型の100%オンライン授業に取り組みました。非常勤講師の先生方も含め全教職員がONE TEAMとなり、生徒・保護者と繋がりながらこの難局を乗り切ることができました。「学びの機会を保障する」という観点において、オンライン授業は生徒たちも意欲的に学び質問し、予想以上に効果的でした。

また、「通常と変わらない規則正しい生活の維持」により心身ともに健康も保たれたと保護者から感謝の言葉をいただきました。

しかし、学校が再開し、心の底から喜び合っている生徒たちの姿を見たとき、学校という空間での学びがいかに貴重であるかを実感しました。今後も有事に備え、柔軟に対応できる体制を整えていきたいと思っております。

新型コロナウイルスへ対応・教員から一言

塩部幼稚園 年長組担任 畑 充仁

武漢で新型ウイルスが猛威を振るっているというニュースを初めて聞いた時、正直自分に深く係ることは思いませんでした。それが、あっという間に日本にも感染者が現れ、山梨にも陽性の方が出てきました。

次々に園行事が延期、縮小、中止。大変な事態となっていることを否が応でも目に沁みさせられることになりました。そして、突然の休園。教職員は、当番日以外自宅待機。子どもたちはどうしているのか、いつ園が再開できるのか、不安な毎日でした。

6月になって全員登園になり、子どもたちに会えた時は本当にうれしく思いました。笑顔いっぱいの子どもがほとんどでしたが中には

ぐずる子も。ふつうは元気な年長さんにも泣く子がいて、彼等も不安なのだと思知らされました。

そんな子どもたちを前にして心底から沸き上がった思いは自分がコロナに罹ってはならない、自分が子どもたちに病気をうつしてはならないということでした。

手洗い、マスク着用、教室丸ごと、おもちゃ、遊具などの消毒、換気一つ一つ積み重ねです。密にならないようにするのは難しい。子どもたちは本能的に密になりたがりです。手洗いはとても上手にできるようになっています。手首、爪の先、指の間もていねいに洗っています。

早く大きな声で全園児と歌える日を願いながら 目の前の小さな感染防止対策を実行して行っています。

山梨学院小学校 主幹教諭 長田 直美

未曾有のコロナ禍で、私たちは、休校や分散登校の対応に追われました。急務は、子どもたちへの学習支援・生活支援でした。まずは、教師が工夫を重ねて動画を作成し、400本を超える内容を配信して授業を進めました。

それ以上に重要視したのは、「心のケア」でした。

オンライン通話や電話で、健康状態や学習の進捗状況を確認しました。中には教師と話ができて涙ぐむ子どももいて、寂しい思いを共有することができました。

さらに全教職員が「上を向いてあるこう」を歌って、休校中の子どもを励ますビデオメッセージを送りました。「感動して涙が出ました」という言葉を多くいただき、離れていても子どもと通じ合えることの大切さを改めて感じました。